

古写真や絵画で見る 仙台歴史散策

伊達政宗が詩歌を書き入れた「萩に鹿図」

仙台市博物館 学芸企画室長 樋口智之

第10回

『万葉集』の萩と鹿

新元号「令和」の典故として『万葉集』の「梅花の歌三十二首」の序文が注目されたのは記憶に新しいところで、梅は人気の花だったのでしよう、たくさんの方が『万葉集』には収録されています。けれども、この梅をしのいで最も多くの歌に詠まれている植物が、実は萩なのです。その数、百四十首余り。そしてこのうち二十首余りが鹿とともに詠まれています。鹿は秋に恋の相手呼び鳴く声が印象深いことから、この頃に咲く萩と合わせて詠まれたようです。中には、鹿が萩に思いを寄せる様を詠ったり、萩を鹿の妻ととらえたりする歌もあります。以後、萩と鹿の取り合わせは、くり返し和歌の題材となり、美術の分野でも、絵画や工芸品の意匠に表されてきたのです。

伊達家に伝来した「萩に鹿図」

さて、かつて伊達家に伝来し、現在は仙台市博物館の所蔵となっている「萩に鹿図屏風」四曲一双の左隻にも、萩と鹿が描かれています。母と子の二頭の鹿が萩と寄り添うように憩う姿は、万葉の時代以来、人々が共通認識とし

て持つてきた萩と鹿の親密なイメージをよく受け継いでいると言えるでしょう。

余白の金地には、伊達政宗がさまざまな和歌や漢詩などを書きつけています。萩と鹿の両方を詠んだ歌はありますが、萩のみを取り上げた歌が右隻にあるのでご紹介しましょう。『新古今和歌集』収録の権僧正永縁の歌です。

秋はぎを おらではすぎし 月草の花ずり衣 露にぬるとも

(美しい秋萩を折らずには通るまい。たとえ月草(露草)の花で摺ったこの衣が露にぬれて色あせようと)

※現代語訳は『新日本古典文学大系』II(岩波書店)による。

和歌のほかにも『源氏物語』の一節や、中国・唐時代の漢詩も書かれています。政宗が古典に深く親しんでいた様子がうかがえます。

文化人としての本領

しかし、政宗の文化人としての本領は、絵師に描かせた絵の中に、自ら筆をとって詩歌を書きつけるといふ行為そのものにあります。これは安土桃山

時代から江戸時代の初めにかけて、近衛信尹や鳥丸光広ら京都の能書家の間で行われた、絵と書の共鳴・融合を目指す芸術活動に連なるものです。彼らと交流のあった政宗はそれを自らのものとしたのです。

政宗の芸術家としての側面を私たちに教えてくれるこの屏風。もとは彼が晩年に住んだ若林城の襖だったものと推測されています。左記の展示期間には、襖の引手の跡も展示室でご確認いただけるでしょう。ぜひご来館ください。



萩に鹿図屏風(左隻) 仙台市博物館蔵
9/25~11/10に仙台市博物館常設展で展示予定
※萩のみを描いた右隻は11/12~12/27に展示予定

企画展

仙台市市制施行130周年記念

やっぱり絵図がすき! —博物館で旅する仙台藩と城下町—

10月11日(金)~12月1日(日)

あなたの今いる場所が昔はどんな場所だったか、知りたいと思ったことはありませんか?

本展では、仙台下絵図や村絵図など江戸時代の「仙台」を描いた絵図、仙台藩領全体を描いた国絵図や、世界を描いた坤輿万国全図屏風など、仙台市博物館所蔵の絵図の一大コレクションを一堂に公開します。

絵図が好きな方も、これから好きになる方も、博物館で旅をしませんか。

【会期中の休館日】毎週月曜日(10/14、11/4は開館)、10/23(水)、11/5(火)

【観覧料】常設展料金:一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)

※30名以上の団体は()内の料金。このほか各種割引があります。

仙台下絵図 百花繚乱!



文久二年仙台下絵図 文久2年(1862) 仙台市博物館蔵

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 ▶10月の休館日 毎週月曜日(14日は開館)、23日(水)

SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku ▶博物館HP

仙台市博物館

検索